

シンポジウム 5: 増加する STI への診療戦略

性器ヘルペス・尖圭コンジローマの診療戦略

愛媛大学医学部附属病院 泌尿器科

渡辺 隆太*・大川 大・坂本 みき・澤田 貴虎・西田 敬悟
大西 智也・西村 謙一・福本 哲也・三浦 徳宣・宮内 勇貴
菊川 忠彦・雑賀 隆史

抄録:

性器ヘルペスおよび尖圭コンジローマは日常泌尿器科診療で遭遇する疾患であり、迅速な診断と治療が重要である。性器ヘルペスでは Patient-Initiated Therapy (PIT 療法) や再発抑制療法の有用性が報告されており、胎児への感染の懸念から感染妊婦への治療が重要である。一方、尖圭コンジローマでは外用療法や手術による複数の治療法の組み合わせが有効であり、また予防的観点からヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチン接種が推奨される。これら疾患の最新の診療戦略を概説する。(西日泌尿, 87: 156-157, 2025)

キーワード: 性器ヘルペス, 尖圭コンジローマ, PIT 療法, 若年性再発性呼吸器乳頭腫症 (JORRP), HPV ワクチン

1. 性器ヘルペス

性器ヘルペスは、単純ヘルペスウイルス (HSV) による性感染症であり、HSV-1 型と HSV-2 型に分類される¹⁾。初感染では、性器に浅い潰瘍性や水疱性病変が形成され、発熱や全身倦怠感などの全身症状を伴うことがある。感染後、ウイルスは知覚神経を通じて上昇し、腰仙髄神経節に潜伏感染する。その後、疲労や性行為などの刺激によって再活性化し、再発時には軽微な病変や無症候性排泄が見られることが特徴である。

性器ヘルペスの診断には、臨床所見に加えて、迅速診断法 (イムノクロマトグラフィー法) が用いられる。治療は早期の開始が重要であり、症状の進行を抑えつつ、再発頻度を減少させることが可能である。

再発性ヘルペスの治療には、以下の3つの方法がある。エピソード治療では、発症初期 (24 時間以内) に抗ヘルペスウイルス薬を内服し、5 日間治療を継続する。再発抑制療法では、年間 6 回以上の再発を繰り返す患者に対し、バラシクロビルを長期に継続投与することで再発率を低下させることが期待される。PIT 療法は、再発の予兆を感じた際に速やかに内服薬を服用する方法である。

感染予防にはコンドームの使用が推奨されるが、臀部や大腿部など非性器部位に病変が現れることもあり、完

全な予防には限界がある。特に妊婦の場合、新生児ヘルペスのリスクが高いため、分娩時には帝王切開が推奨される。

2. 尖圭コンジローマ

尖圭コンジローマは、HPV の 6 型および 11 型による感染症である。典型的には、亀頭、包皮、外陰部、肛門周囲などに鶏冠状の疣贅が出現する。潜伏期間は 3 週間から 8 カ月と長く、無症状のまま感染が拡大する可能性がある。

診断は、視診や酢酸塗布試験、病理組織検査 (コイロサイトーシスの確認) を組み合わせて行う。

治療には、イミキモド 5% クリームの外用、凍結療法、レーザー蒸散、電気焼灼などがある。しかし、単独治療の治癒率は 60 ~ 90 %, 再発率は 20 ~ 30 % とされ、複数回の治療が必要となる場合もある。包茎症例では環状切開術を併用することが推奨される。イミキモドクリームの作用機序は局所でのサイトカイン産生促進による HPV 増殖抑制作用及び HPV 感染細胞障害作用であり²⁾、外用の際は十分な塗布時間の確保が必要である。可能な限り 10 時間の塗布を継続することで十分な治療効果を得るため、生活スタイルに合わせた塗布のタイミングの決定が必要がある³⁾。

妊婦における尖圭コンジローマは、分娩時の母子感染によって若年性再発性呼吸器乳頭腫症 (JORRP) を発症するリスクがある。JORRP は、気道粘膜に良性乳頭

* 〒791-0295 愛媛県東温市志津川 454
TEL 089-960-5356, FAX 089-960-5358
E-mail watanabe.ryuta.cu@ehime-u.ac.jp

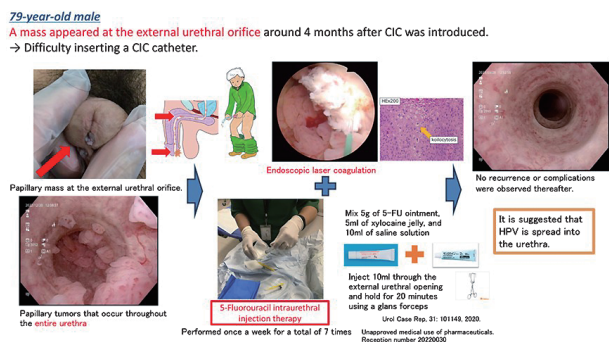


Fig. 1 Condyloma acuminatum of the urethra in a CIC patient (a case report at our institute)
After Holmium YAG laser coagulation, 5-FU intraurethral infusion therapy was performed 7 times, and the disappearance of the mass and prevention of recurrence were achieved.
(Sugihara et al. The Nishinohon Journal of Urology 2024)

腫が多発する疾患で、気道閉塞を来し致命的となることもあるため、妊婦を適切に治療して児が暴露されるウイルス量を減らすことと帝王切開が推奨される。

また、感染予防にはコンドームの使用が基本であるが、潜伏感染の存在や接触感染のリスクを考慮すると限界がある。HPV ワクチン（4 価または 9 価）は感染予防に非常に有効であり、尖圭コンジローマだけでなく HPV 関連の中咽頭癌や肛門癌の予防にも寄与する。2020 年から男性への接種が承認され、パートナーを保護だけでなく、集団免疫の形成が期待される⁴⁾。

自験例を示す⁵⁾ (Fig. 1)。79 歳男性、带状疱疹後の尿閉で間欠的の自己導尿（CIC: clean intermittent catheterization）導入。4 カ月後に外尿道口尖圭コンジローマ

を発症し、膀胱鏡で尿道全長に多発腫瘤を確認した。凍結療法で外尿道口病変を消失させたが、尿道尖圭コンジローマと診断し、CIC 中止後に膀胱瘻造設術と Holmium YAG レーザー焼灼術を施行した。さらに 5-FU 尿道内注入療法を 7 回実施し、腫瘤消失と再発防止を達成した。本症例では CIC による HPV の尿道内播種が病態形成の一因と考えられ、外尿道口病変がある場合の膀胱鏡観察の重要性が示唆された。

文 献

- 1) 性感染症診断・治療ガイドライン 2020. 一般社団法人 日本性感染症学会.
- 2) 高橋 聡: Urological Pharmacotherapy これ一冊でパーフェクト!! 泌尿器科薬物療法 2024 尿路感染症 尖圭コンジローマ. 泌尿器外科 37 巻特別号: 408-409, 2024.
- 3) 長野 徹: 【昔ながらの外用薬と新しい外用薬 - 理論を学び、実践に移す】 (Part3) 新しい外用薬 使い方のコツを伝授します (case 11) ベセルナクリーム の使い方 日光角化症に使用した例. Visual Dermatology 19 (10): 1052-1053, 2020.
- 4) Fu X, et al.: Acceptance of human papillomavirus vaccine among boys in Asia: A narrative review. Hum Vaccin Immunother. 2024 Dec 31; 20 (1): 2429894. doi: 10.1080/ 21645515.2024.2429894. Epub 2024 Nov 29.
- 5) 杉原直哉・他: 間欠自己導尿中に発生し、レーザー焼灼術と 5-フルオロウラシル尿道内注入療法にて治癒した尿道尖圭コンジローマの一例. 西日本泌尿器科. 86 (4): 255-259.

TREATMENT STRATEGIES FOR GENITAL HERPES AND GENITAL CONDYLOMA ACUMINATA

RYUTA WATANABE, DAI OKAWA, MIKI SAKAMOTO, TAKATORA SAWADA
KEIGO NISHIDA, TOMOYA ONISHI, KENICHI NISHIMURA,
TETSUYA FUKUMOTO, NORIYOSHI MIURA, YUKI MIYAUCHI
TADAHIKO KIKUGAWA AND TAKASHI SAIKA

Department of Urology, Ehime University Hospital, Ehime, Japan

Abstract

PIT therapy is effective for genital herpes, and managing pregnant women is crucial due to neonatal infection risk. Condyloma acuminatum requires combined treatments, including topical agents and surgery, while HPV vaccination is key for prevention. This article outlines updated treatment strategies.

(Nishinohon J. Urol. 87: 156-157, 2025)

key words: Genital herpes, genital warts, PIT therapy, juvenile recurrent respiratory papillomatosis (JORRP), HPV vaccin